

小学校部会

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～		
役職名	氏名		
研究発表者 視点説明	都 城 市 立 祝 吉 小 学 校	教 諭	奥 村 瞳

② 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I	第4学年	ゲ ー ム 「 タ グ ラ グ ビ ー 」	都 城 市 立 高 崎 小 学 校 教 諭 末 原 義 国
II	第5学年	体 っ く り 運 動 (体 の 動 き を 高 め る 運 動)	都 城 市 立 明 和 小 学 校 教 諭 宮 田 翔 馬

③ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	南九州大学人間発達学部	教 授	宮 内 孝
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	堀 内 潤 一 郎
司 会 者	宮 崎 市 立 宮 崎 東 小 学 校	教 諭	年 永 健 二
記 録 者	日 之 影 町 立 宮 水 小 学 校	教 諭	菊 池 正 隆
	西 都 市 立 穂 北 小 学 校	教 諭	高 須 力 樹
進 行	都 城 市 立 笛 水 小 学 校	教 諭	永 野 智 巳

④ 研究発表

研 究 発 表 題 目		発 表 者	
スポーツルールに着目した総合学習プログラムの提案 ～ネット型ボールゲームを志向して～		宮 崎 市 立 西 池 小 学 校	教 諭 佐 々 木 麻 莉 枝
進行・司会者	延 岡 市 立 延 岡 小 学 校	教 諭	南 崎 省 吾
記 録 者	椎 葉 村 立 大 河 内 小 学 校	教 諭	坂 下 逸 朗

小学校部会の研究

1 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～動きの高まりを意識した体づくり運動の学習を通して～

2 主題設定の理由

小学校学習指導要領改訂において体育科では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むこと」の大切さが示されている。運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることや体力の向上につながっていることに注目させ、自己の能力や適性等に応じて、運動との多様なかかわり方について考える必要がある。そのため、運動の楽しさや健康の意義等に気づき、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すための授業改善が求められている。

また、本年度は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、将来を担う子どもたちの体育やスポーツに対する関心や期待が高まってきている。一方で、コロナ禍における運動不足や運動離れにより、基礎体力の低下等、大きな課題も見られる。

本研究の領域である「体づくり運動」は、小・中・高と一貫して位置付けられており、特に、小学校高学年においては、体力向上を目的としているその役割が大きいことから、指導内容の充実が期待されている。

さらに、本地区の教員に対してアンケートを実施したところ、「体づくり運動」の指導の在り方について関心や不安をもっているという意見が多く出された。このような実態を踏まえ、「体づくり運動」の学習を中心に、進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方について研究を進めてきた。

研究1・2年目は新学習指導要領の改訂のポイントに沿って指導方法の見直し及び研究の方向性の検討を行った。研究3年目は、コロナ禍における研究や体育科学習の在り方について検討しながら、「基本的な単元構成」や「基になる動きの系統表」等の作成を通して、動きの高まりを意識した体づくり運動の学習の在り方について研究した。オリエンテーションや課題提示を工夫することで、児童が見通しをもって、主体的に活動する姿が見られた。しかし、「基になる動き」の取り上げ方(単元の位置付け等)や動きの高まりを実感させるための手立てなど、課題も残っている。そこで、4年目となる本年度は、3か年の研究の成果・課題を整理するとともに、新たにICTの活用等も視野に入れ、授業実践に取り組んでいる。

以上のことから、体づくり運動を通して、児童が課題解決の方法を主体的に考え、自らの伸びを実感することで、成就感や達成感を味わい、運動の楽しさや魅力を感じることができると考え、本主題を設定した。

3 研究の全体構想

体育科の目標 生涯にわたって運動に親しむ児童の育成
～豊かなスポーツライフの実現に向けて～

都城市・三股町小体連が目指す児童像

進んで運動に親しみ、運動の課題や練習方法を自ら考えたり、工夫したりしながら運動の技能を高め、楽しく運動する児童

研究目標

体づくり運動における単元構成の工夫や指導方法の工夫・改善、運動の日常化を図るための環境整備を通して、運動の楽しさや自らの伸びを実感できる児童を育成するための体育学習の在り方について究明する。

研究主題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～動きの高まりを意識した体づくり運動の学習を通して～

研究仮説

体づくり運動を通して、運動することの楽しさや心地よさを味わい、自らの伸びを実感できるよう学習過程を工夫し、個々に応じた課題解決の場を設定すれば、児童は運動に進んで取り組み、楽しさを味わうことができるであろう。

研究内容

児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育学習の在り方

(1) 進んで運動に親しむための工夫

- ア 単元構成の工夫
 - オリエンテーションや「基になる動き」の位置付け
- イ 動きの視覚化のための手立て
 - 板書計画や学習カードの工夫

(2) 楽しさを味わうための工夫

- ア 動きの高まりを実感できる手立て
 - 「基となる動き」の系統表やチェック表の作成・活用
- イ 運動条件の工夫
 - 運動条件の工夫カードの作成・活用

評価

改善

4 研究の実際

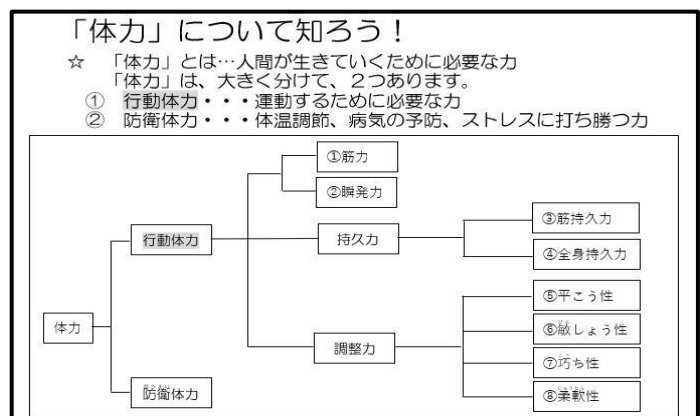
3か年の研究で作成した資料等を精選・整理するとともに、ICTの活用を視野に入れ、「児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育学習の在り方」の具現化を図る。

(1) 進んで運動に親しむための工夫

ア 主体的な姿を実現するための工夫

児童が見通しをもって活動できるように、オリエンテーションの内容や「基になる動き」の位置付けを含めた単元構成について検討した。特に、オリエンテーションは、体の動きを高める必要性を認識し、目的をもって学習を進めることができるよう、体力の要素等についてまとめた資料を活用しながら行った。【図1】

また、単元の構成を「基になる動き」→「条件を変化させた動き」→「基になる動き」という学習の流れにすることで、自らの伸びを実感し、意欲的に運動に親しむことができるよう計画した。運動によっては、1単位時間の中でも、「基になる動き」に戻すことで、スモールステップで変化を捉えることができた。【図2】



【図1：オリエンテーション資料の一部】

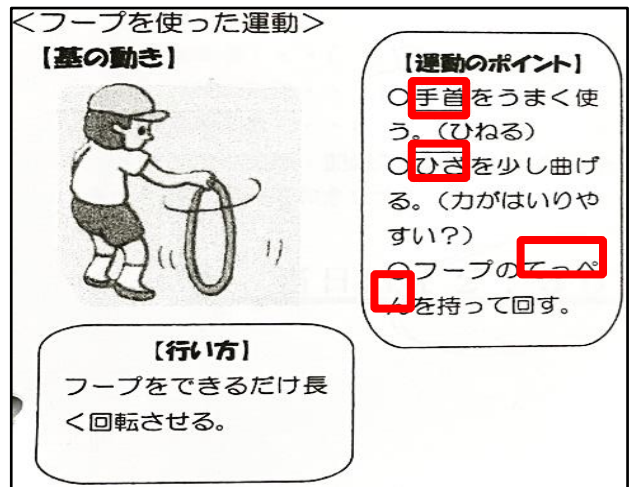
単元の学習計画及び評価計画(第○学年)

時間	1	2	3	4	…(本時)	X	
指導内容	知・技	①体の動きを高めるための運動の行い方 ②●●を使用した動きの高め方 ③人や物の変化に対応した動きの高め方 など					
	思・判・表	①自己や仲間の課題発見 ②課題に応じた取り組み方の工夫 ③他者に伝える力 など					
	態	①積極的な取り組み ②仲間との助け合い ③準備や片付け ④仲間との認め合い ⑤場や用具の安全 など					
学習活動	0	オリエンテーション	●●運動(遊び)			課題に合った運動	
	10	1 準備運動を行う。 2 オリエンテーションを行う。 ○ 運動について ○ 学習の進め方	1 学習の約束を確認する。…「わくわく体育6つのOK」 2 準備運動を行う。…使う部位を中心に準備体操、場・用具の準備 3 学習の進め方を確認し、見通しをもつ。…今日のめあて、今日の流れ				
	20	3 自分の体力を調べる。 ○	4 基になる動きを運動のポイントに沿って正しく行う。 ○ ●●運動に取り組む。 5 条件を変化させ、工夫して運動を行い、動きを高める。 ○ ●●運動を工夫し、行う。			4 ポイントを意識しながら、動きを高める運動に取り組む。 ○ 自分の課題に合った運動	
	30	4 試しの運動を行う。 ○	6 基になる動きを運動のポイントに沿って正しく行う。			5 工夫した動きとそのポイントを伝え合う。	
	45	5 本時の学習を振り返る。 ○ 学習カード記入 6 片付けを行う。	7 学習(本時・単元)を振り返り、運動のポイントや課題を整理する。 ○ 学習カード記入 8 片付けを行う。				
評価の重点	知・技						
	思・判・表	①観察 ②観察・カード など					
	態	※指導内容と評価の重点化					
主な準備物							

【図2：単元計画】

イ 動きの視覚化のための手立て

運動のポイントが「分かる楽しさ」を味わうために、板書や学習カードを工夫する。動きを視覚化することで、運動の行い方やポイントが分かり、より主体的に活動することができる。「何が」「どのようになっている」からできたのかを分析できるように、体や用具の部位に着目するようにした。板書や学習カードには「足・膝…曲げる」「手首…回す」など、動きのポイントを細かく示すことができるようにする。【図3】



【図3：板書内容の一部】

また、今年度からは、タブレット PC を用いた学習カードを作成し、効率的に運動の記録や情報共有ができるようにしている。

(2) 楽しさを味わうための工夫

ア 動きの高まりを実感できる手立て

児童が「伸びる楽しさ」を実感できるように、それぞれの学年でどのような動きを身に付けなければならないのかを明確にする必要がある。そこで、体づくり運動における「基になる動き」の系統表を整理した。系統性を図った単元構成により、単元全体や本時の指導事項を明確にし、指導することができる。

また、児童用の「基になる動き」のチェック表も作成した。【図4】児童自身が、「基になる動き」を意識するとともに、自分の動きの高まりを実感することにもつながると考え

た。さらに、体育科の時間以外にも自由に活用し、日常的に体づくり運動に取り組めるよう促していく。

「基の動き」チェック表（高学年）	
5年生・6年生	
巧みな動きを	できるようになった動きを確認しよう
	1 短なわや長なわを使って、跳び方を変えたり、跳ぶリズムを変えたりしながら、跳ぶこと
	2 短なわや長なわを使って、人数を変えて一緒に跳んだり、なわとびをしながらドリブルをついたりすること
	3 投げ上げたボールを姿勢を変えて捕ること
	4 投げ上げたボールを位置を変えて捕ること
	動きができるようになったら、自分で○や◎をかきましよう。 ◎…よくできた ○…できた △…もう少しでできる
	1の動き（ ）
	2の動き（ ）
	3の動き（ ）

【図4：児童用の「基の動き」チェック表】

イ 運動条件の工夫

用具や人数などの条件を変えることで、運動の楽しさや面白さも変わってくる。児童の実態に合わせ、条件の変化を選択させたり、視点に沿って考えさせたりした。また、運動条件を変えて、様々な動きができるように、新学習指導要領に記載されている動きを基に条件を例示した資料（運動条件の工夫カード）を作成した。【図5】

授業の目的に応じて、教師側・児童側両方が活用できるようにしたい。

☆跳ぶ、跳ねるなどの動きで構成される運動遊び

基になる動き

線の上をリズムに合わせて両足で跳びながら進む。

片足跳び



★片方の足だけで跳ぶ。

動作の方向



★真ん中のラインをふまないように跳ぶ。

開脚跳び



★開脚の状態で跳ぶ。

【図5：運動条件の変化の例】

5 成果と課題

(1) 成果

- 日常生活とつないで考えさせるなど、オリエンテーションを工夫したり、児童から出た言葉をポイントとして視覚的に示したりすることで、関心や見通しをもって活動し、主体的に運動に親しむ児童の姿を見取ることができた。
- 「基になる動き」に特化して授業を構成することで、運動条件を工夫して行う視点を身に付けさせるとともに、動きの高まりを感じられる学習となった。

(2) 課題

- 動きの高まりの評価方法として、動きの高まりについては、児童の感覚的なものに頼るところが多かった。ICT を活用したデータの記録等、様々な方法で動きの高まりを見取る必要がある。

6 参考文献・資料

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編（平成29年7月） 文部科学省
- 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック（平成23年7月） 文部科学省

第5学年1組 体育科学習指導案

令和3年10月29日（金）4校時

第5学年1組（男子19名・女子22名）

場所 都城市立明和小学校体育館

指導者 宮田 翔馬

1 単元名 体づくり運動（体の動きを高める運動）

2 単元の目標（第5学年及び第6学年の2学年分）

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができるようにする。
 - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。（知識及び運動）
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

3 運動の一般的特性

高学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。

高学年では、手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするとともに、低学年・中学年での多様な動きをつくる運動（遊び）を踏まえ、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて中学校での体づくり運動の学習につなげていくことが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級の児童は元気で明るく、様々な活動へ素直に取り組む児童が多い。昼休みの時間も、半数以上の児童が外に出て鬼ごっこやサッカーなどをして遊んでいる。

一方で、体力への自信の無さから、体を動かすことに消極的な児童もいる。教室内で読書をしたり、タブレットPCをつかってタイピング練習をしたりすることが多い児童もおり、運動経験の差が大きい。しかし、係が企画した学級全員が参加する運動遊びには積極的に参加する児童がほとんどで、共同で何かを行う活動に対して抵抗を感じている児童は少ない。

これまでの体育科の学習を通しては、学級全体として友達と楽しく活動に取り組む様子が見られる。1学期前半で行った体ほぐしの運動では、体の力を抜いてリラックスしたり、体の動かし方によって気持ちが異なったりすることなど、心と体の関係に気付くことができた。

(2) 「知識及び運動」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び運動」に関しては、心と体は関係していることを学んだり、体づくり運動は体ほぐし運動と体の動きを高める運動から構成されていることを理解したりしてきた。さらに、これまでの体づくり運動の学習の中で運動や人数などの条件を変えて、友達と関わり合いながら運動することができている。その中で、サーキットトレーニングにも取り組んでいるが、まだ巧みな動きが高まっている状況にはない。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、課題の解決のためにはどうしたら良いのかを考

えたり、話し合ったりする活動を重ねてきた。ボール運動の学習では、ルールの工夫をしたり、全員が楽しんで活動するためにはどうすればよいか話し合ったりしてきた。また、どの領域においても、友達の動きのよさに注目して、動きのコツをつかもうと心がけてきた。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、児童同士で声をかけ合ったり、考えたことを交流したりするなど、互いの考えを認め合いながら学習に積極的に取り組んできた。また、体育の学習をみんなで盛り上げるために、規則を守ったり、プラスの言葉かけの良さに気付いたりできる児童も増えてきた。しかし、勝敗を受け入れることや周囲の安全に気を配ることなどについては十分にできていない。

(3) 体力の状況

段階	男子					女子				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	1人	3人	7人	5人	3人	0人	2人	8人	8人	4人
%	5%	16%	37%	26%	16%	0%	9%	36%	36%	18%

本年度の新体力テストにおいては、全国平均より低かった項目がいくつかあった。その中でも男女ともに反復横跳びや立ち幅跳びなどの種目に課題があることが分かった。また、総合評価の割合は、A、B段階の児童が15%、C段階の児童が37%、D、E段階の児童が49%という結果であった。

授業や昼休みの様子を見てみると、長い時間運動する力や、力強い動きについては一定の体力が備わっているように感じている。しかし、用具を操作しながら運動する経験が少なく感じる児童が多く、まだまだ備わっているという段階には達していない。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、体の動きを高める運動の中でも、「巧みな動きを高めるための運動」に重点を置いて「用具を用いた運動」等を主運動として行い、その能力を高めていきたい。

単元を構成するに当たっては、3つの基の動きを重点的に行い、グループで話し合いながら用具を使った運動を自分たちで考える活動を位置付けていく。

1つ目の基の動きは、ラダーを用いた動きである。足を交互に上げて進んだり、開脚・閉脚の交互跳びをしたりする。ラダーを用いることで、リズムよく走ったり跳んだりすることを高めていくようにする。

2つ目の基の動きは、ボールを用いた動きである。ボールを投げ上げたり、ドリブルをしたりする。ボールを用いることで、姿勢や位置を変えて捕球したり、ボールをコントロールしながら投げる、捕るなどの用具を操作したりすることを高めていく。

3つ目の基の動きは、なわを用いた動きである。短なわを用いて前跳びをしたり、長なわを用いて跳んだりする。なわを用いることで、回旋の仕方や跳ぶリズム、なわに入るタイミングなどの力を高めていく。

単元はじめのオリエンテーションでは、3つの基の動きを行うことを知らせ、基の動きを行うことで自分の体がどのように高まるのかを全体で共通理解させ指導に当たりたい。また、3つの基の動きがどのような要素をもっているのかについても理解させた上で授業を展開していきたい。

単元前半では、基の動きの確認を行い、体の動きを高めるための運動の仕方を理解させていく。3つの基の動きを確実に理解させることで、単元後半の活動につなげていきたい。

単元後半では、グループに分かれ、基の動きと用具を組み合わせた運動を考えていく。2つの動きを組み合わせながら運動をすることで、児童が自らの動きの高まりを実感できるようにしながら、動きの質の高まりを期待したい。その際、児童が取り組んでいる運動について、どのような動き方や意識、感覚が大切なのかという運動のポイントについて全体で共有する時間を設けたい。教師からの助言だけでなく、児童同士の発言で伝え合ったり見せ合ったりする機会を設け、気付きや考えの交流を促したい。

単元の終わりには、グループごとに考えた運動を発表していく。その際、工夫した動きのポイン

トについて言語化することにより、他のグループだけでなく自分たちの理解も深めるように説明させていく。また、自分のグループとは違った運動の仕方を受け入れ、運動を行うことで新たな気づきに繋がるようにしていきたい。

単元を通して、自分たちで考えた用具を使った運動をすることで、自身の動きが高まったかどうか実感させる。そのために、タブレット端末を効果的に活用していきたい。タブレット端末で撮影された自分たちの映像をもとに、課題の発見や解決が行われたり、運動のポイントや動きの高まりを実感しやすくしたりすることにつなげたい。

「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性に応じて、運動とスポーツとの多様な関わり方について考えさせたい。

授業前半のグループ活動では、2つの基の動きを組み合わせた運動という条件で授業を進めていく。2つの用具を扱いながら運動をすることで、児童が自らの動きの高まりを実感できるようにしながら、動きの質の高まりを期待したい。その際、前時の課題に応じた動きを振り返り、動きを修正したり新たな動きや運動を設定したりするなどの主体的な学びを促したい。そのために、ICT機器を活用して、前時までの児童の運動の様子を撮影した動画を見せることで、動きを確認したり動きのポイントをつかませたりするようにしていきたい。

授業後半のグループで運動を見せ合う活動では、グループ相互にアドバイスを送ることを通して、思考を広げたり深めたりするなどの対話的な学びを促したい。教師からの発問や指示だけでなく、児童同士が運動の例示を見せたり言葉で伝えたりすることで、気づきや考えの交流を期待したい。また、グループ内で努力したことを認められるように助言することで、児童の運動に対する意欲や自己肯定感を高めていく。

その過程で、課題解決に向けた試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを期待したい。児童が主体的に運動を選択し、これまでの経験や学習してきた運動のポイントを意識させたり、これまでの動き方と比較させたりすることで、実感を伴うような質の高い運動ができるようにしたい。

学習カードは単元を通して、考えたことや思ったことを言葉でまとめるだけでなく、自己の考えを深めたり友達の考えを理解したりすることができるようにしたい。そのために、学習カードの中にグループ内で考えた運動を絵や言葉などを用いて記入し、児童自身が動きの高まりを実感できるようにする。また、学習カードの振り返りにより、自身やグループでの課題が明確化されることで、動きの高まりの質の向上を図りたい。

本時において、本学級の課題である、巧緻性や敏捷性の向上をねらいとした巧みな動きを高めるための運動について、それに合った運動を通してその高め方を学習する。

はじめの段階では、グループごとに課題を達成するための運動を行う。その際、教師用の運動条件の工夫カード集を用いたり、基の動きのポイントを想起させたりしながら、運動に取り組ませたい。また、前時の学習を振り返り、本時の学習の流れや安全面について確認させることで、学習への意欲と見通しをもたせたい。

なかの段階では、グループでの活動を行う。まず、前時で考えた基の動きを組み合わせた運動を確認させる。それぞれの運動について、基の動きのポイントを確かめながら運動に取り組むように促したい。次に、グループで運動を見せ合い、互いにアドバイスを送ったり、認め合ったりする活動を行う。その際、動きの高まりが実感できるような声かけや称賛し合うような発言ができるよう促したい。また、児童が失敗を恐れず、友達と協力しながらできる喜びや楽しさを実感できるように随時声かけをしていきたい。

まとめの段階では、本時の学習の振り返りを行う。グループごとに集まり、体の動きの高め方についての理解や、体の動きの高まりの実感等について話し合ったり、学習カードに成果を記入したりするなど交流させたい。そして、個人の動きの高まりや友達の頑張りなどを全体の場で発表させたり、グループでの教え合いや声かけ等について称賛したりし、学習のまとめを行いたい。

カリキュラム・マネジメントの視点から、事前に保健における「心の健康」や「けがの防止」（第5学年）の学習を振り返る。それにより、児童が「体づくり運動」を学習する意義をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。

道徳科においても事前に「相互理解・寛容」、「規則の尊重」、「よりよい学校生活・集団生活の充実」などについて学習することで、学習中における自己や他者との関わり方の工夫につながり、体育科及び道徳科相互に学習効果が高まることを期待する。

単元途中や単元後も同様に、保健学習の「病気の予防」（第6学年）をはじめ、道徳や特別活動においても体づくり運動の単元を振り返りながら学習活動を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	<p>次の運動の行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりしている。 ・体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をしている。 	<p>自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>
単元の評価規準	<p>①体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②ラダーを用いてリズムカルに移動したり、跳んだりすることができる。</p> <p>③ボールをコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすることができる。</p> <p>④短なわや長なわを用いて回旋の仕方や跳ぶリズム、人数などを変えていろいろな跳び方をしたり、なわ跳びをしながらボールを操作したりすることができる。</p>	<p>①自己の体力の状況を知ったり、体の様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。</p> <p>②ICT機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。</p> <p>③基の動きを発展させた運動の行い方を他のグループの仲間に例示して見せたり、言葉で伝えたりしている。</p>	<p>①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>③運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。</p> <p>④運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めようとしている。</p> <p>⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。</p>

7 指導と評価の計画（8時間）

時間		1	2	3	4	5	6	7(本時)	8	
指導内容	知	①知識 (3つの基の動きの行い方の理解)		②技能 (ラダーを用いた動き)	③技能 (ボールを用いた動き)	④技能 (短なわ、長なわを用いた動き)				
	思						①思考・判断 (自己や仲間の課題発見)	②思考・判断 (課題に応じた動きの工夫)	③表現 (他者に伝える力)	
	態	⑤健康・安全 (場や用具の安全)	①愛好的 (積極的な取組)	④責任・参画 (仲間との認め合い)			③公正・協力 (準備や片付け)	②共生 (仲間との助け合い)		②共生 (仲間との助け合い)
学習過程	10分	1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 主運動につながる準備運動								
		3 オリエンテーションを行う。	3 学習の進め方を確認し、見通しをもつ。							
	10分	4 運動の工夫の仕方について確認する。	4 3つの基の動きを行う。	4 基の動き(ラダー)の確認をする。	4 基の動き(ボール)の確認をする。	4 基の動き(なわ)の確認をする。	4 3つの基の動きの確認をする。		4 グループごとに動きを高める運動に取り組む。 5 工夫した動きのポイントを伝え合う。	
		20分		5 基の動きを使った運動に取り組む。 ・ ラダーを使ったステップ移動 ・ ボールの投げ上げ、パス ・ なわをつかった跳躍			5 グループごとに基の動きを使った運動の組み合わせたものに取り組む。	5 前時の課題に応じた動きを工夫し、動きを高める運動に取り組む。	6 基の動きに取り組みせ、動きの高まりを実感する。	
5分	5 後片付けと振り返りを行う。	6 基の動きの確認をする。 7 本時の学習を振り返り、運動のポイントや課題を整理する。						7 学習を振り返り、動きのポイントをまとめる。		
評価の重点	知	①知識 【観察・カード】		②技能 【ICT・カード】	③技能 【ICT・カード】	④技能 【ICT・カード】				
	思						①思考・判断 【観察】	②思考・判断 【観察・カード・ICT】	③表現 【観察】	
	態	⑤健康・安全 【観察】	①愛好的 【観察・カード】	④責任・参画 【観察】			③公正・協力 【観察】	②共生 【観察・カード】	②共生 【観察・カード】	
準備物	ラダー、ボール、なわ タブレット端末									
カリ・マネ	保健領域：心の健康（第5学年）、けがの防止（第5学年）、病気の予防（第6学年） 道徳科：相互理解・寛容、規則の尊重、よりよい学校生活・集団生活の充実									

8 本時の学習（7/8時間）

（1）本時の目標

- ICT機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫することができる。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）本時の評価項目

- ICT機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。

（思考・判断・表現）

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法)	「努力を要する」 状況と判断される 児童への手立て
はじめ	1 集合、整列、挨拶、健康観察を行う。	・ 体育の隊形に素早く集合、整列させる。		
	体の動きを高めるためにどのようなポイントを意識すればよいか考えよう。			
なか	2 グループで主運動につながる準備運動をする。 3 学習のめあてと学習の流れを確認し、見通しをもつ。 4 グループ活動 ・ 3つの基の動きと前時の組み合わせた動きを確認する。 ・ 前時の課題に応じた動きを工夫し、動きを高める運動に取り組む。 5 グループで見せ合う。 ・ 2グループで運動を見せ合い、互いにアドバイスをもらう。	・ 全身を十分に動かし、一つ一つの運動を正確に行わせる。 ・ 前時までに行っていた運動を想起させる。 ・ ICT機器を活用して動き方を確認し、動きのポイントをつかませるようにする。 ・ 動きを高めるために、児童同士で動きを見合い、教え合うことを大切にする。 ・ 基の動きに戻ることで、動きの高まりを実感させる。 ・ グループ内で努力したことを認められるように助言する。	○ ICT機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。 (観察・カード・ICT) 【Aの例】 個人やグループの課題を踏まえ、試行錯誤しながらよりよい課題解決に取り組んでいる。	組み合わせた動きが苦手な児童には簡単な動きにしたり、行い方を変えたりするなどの声掛けをする。
まとめ	6 学習の振り返り			
	(運動のポイント) に気を付ければ、(どのように) 動くことができた。			
	・ 組み合わせたオリジナルの運動について振り返る。	・ 運動の振り返りをし、次時への意欲を高める。		